

(AL 関連の実践)【高校/国語】「考えて書いて」「考えて話して」深める授業 (2018 年 11 月 18 日掲載 更新なし)

(AL 関連の実践)【高校/国語】生徒による「考えて書いて」「考えて話して」深める授業

中藤辰哉 (清教学園中・高等学校)

溝上のコメントは最後にあります

対象授業

- ・ **授業**：高校 2 年生 現代文
- ・ **生徒**：1 クラス約 40 人×4 クラス
- ・ **時間数**：50 分授業×3
- ・ **教材**：新書「これでもやるの？ 大阪カジノ万博 賭博はいらない！夢洲はあぶない！」
著者 新川眞一・桜田照雄・吉田哲也・田結庄良昭・川内泰雄日本機関紙出版センター
新書「カジノ法の真意 『IR』が観光立国と地方創生を推進する」
著者 岩屋毅 角川出版

第 1 節 今回の授業形態に至るまでの経緯

私の授業では「板書は必要最低限の要素のみ書く」、「生徒が自分で本文を読解しノートを作る」を心掛け、「生徒主体 (眠らない) の授業」を目指している。

教員になった当初は、自らが受けてきたような「本文内容を説明する」ことに時間を割く授業をしていた。しかし、特に寝ている生徒を見た時に「果たして生徒は考えているのだろうか？生徒の為になっているのだろうか？」という想いが日増しに大きくなっていき、結果「生徒が自分で国語の力を身につける」ということの主眼において、上記の授業をデザインするに至る。

授業を実践し始めて 4 年目となり、紆余曲折を経て当初の形から幾分変わった。進化しているのか、それとも退化しているのかは分からないが、とにかく変化していこうと思った結果が今回の授業である。

第 2 節 今回の授業形態と生徒が身につけて欲しい能力

- (1) 「IR の設立」について肯定的に書かれた文書二題 (肯定 A・B) と否定的に書かれた文書二題 (否定 C・D) の計四題を 40 人クラスならば 10 人×4 グループに割り当てて配布する。肯定 A を持っているのはクラスで 10 人という形。なお、文章はそれぞれ各 4500 字程度。難易度はセンター試験より平易な文章。



- (2) 生徒たちは自分に割り当てられた文書を読解し、B4 の真っ白な紙に筆者の主張を論理的に、ただし自分なりにデザインして記していく(→図表 1 参照)。ここで生徒に求めているのは「思考力」「読解力」「デザイン力」である。

※この際生徒たちには「自分が担当している文書を読んでいない人が、まとめを見た時に分かるように書くこと。そのためにしっかり読解すること。」と指示をしておく。



図表1 生徒の作成したまとめ



(3) まとめた用紙を、ジグソー法形式で同じ文書を割り当てられた生徒同志で見せ合う (A の文書を割り当てられた生徒は A の生徒同士で 5 人グループを組む)。

その際、オリジナルのルーブリック (→図表 2) に基づいて他者のまとめを評価し、自らの作成したまとめの「優れた部分」「不足部分」を生徒自身が把握する(→図表 3)。こうすることで「他者の批評を通して自らを批評できる力」が養えることを期待している。

組 番号()			
評価	評価点	ポイント(良かった点)	講師(指導員)のコメント
4	内容が正確で、まとまりよく書かれている。また、重要な部分に色を付けている。	まとめが簡潔で、要点が押さえている。また、重要な部分に色を付けている。	
3	内容が正確で、まとまりよく書かれている。また、重要な部分に色を付けている。	まとめが簡潔で、要点が押さえている。また、重要な部分に色を付けている。	
2	内容が正確で、まとまりよく書かれている。また、重要な部分に色を付けている。	まとめが簡潔で、要点が押さえている。また、重要な部分に色を付けている。	
1	内容が正確で、まとまりよく書かれている。また、重要な部分に色を付けている。	まとめが簡潔で、要点が押さえている。また、重要な部分に色を付けている。	
評価	評価点	ポイント(良かった点)	講師(指導員)のコメント
4	内容が正確で、まとまりよく書かれている。また、重要な部分に色を付けている。	まとめが簡潔で、要点が押さえている。また、重要な部分に色を付けている。	
3	内容が正確で、まとまりよく書かれている。また、重要な部分に色を付けている。	まとめが簡潔で、要点が押さえている。また、重要な部分に色を付けている。	
2	内容が正確で、まとまりよく書かれている。また、重要な部分に色を付けている。	まとめが簡潔で、要点が押さえている。また、重要な部分に色を付けている。	
1	内容が正確で、まとまりよく書かれている。また、重要な部分に色を付けている。	まとめが簡潔で、要点が押さえている。また、重要な部分に色を付けている。	
評価	評価点	ポイント(良かった点)	講師(指導員)のコメント
4	内容が正確で、まとまりよく書かれている。また、重要な部分に色を付けている。	まとめが簡潔で、要点が押さえている。また、重要な部分に色を付けている。	
3	内容が正確で、まとまりよく書かれている。また、重要な部分に色を付けている。	まとめが簡潔で、要点が押さえている。また、重要な部分に色を付けている。	
2	内容が正確で、まとまりよく書かれている。また、重要な部分に色を付けている。	まとめが簡潔で、要点が押さえている。また、重要な部分に色を付けている。	
1	内容が正確で、まとまりよく書かれている。また、重要な部分に色を付けている。	まとめが簡潔で、要点が押さえている。また、重要な部分に色を付けている。	
評価	評価点	ポイント(良かった点)	講師(指導員)のコメント
4	内容が正確で、まとまりよく書かれている。また、重要な部分に色を付けている。	まとめが簡潔で、要点が押さえている。また、重要な部分に色を付けている。	
3	内容が正確で、まとまりよく書かれている。また、重要な部分に色を付けている。	まとめが簡潔で、要点が押さえている。また、重要な部分に色を付けている。	
2	内容が正確で、まとまりよく書かれている。また、重要な部分に色を付けている。	まとめが簡潔で、要点が押さえている。また、重要な部分に色を付けている。	
1	内容が正確で、まとまりよく書かれている。また、重要な部分に色を付けている。	まとめが簡潔で、要点が押さえている。また、重要な部分に色を付けている。	



図表2 ルーブリック (大きく)

図表3 他者のまとめを評価する



(4) 他者のまとめに比べ、自分に足りない部分を生徒が補う時間を設ける (→図表 4)。



図表4 自分のまとめに対する評価を受け止めて、まとめを改善する。



(5) ある程度洗練された文章まとめ A~D が出来上がるので、次は A~D の文章をもった人間が 1 人ずつで構成される班 (ABCD×10 グループ) に分ける。各班員は、自分が担当したまとめを他の班員に 3 分間で発表し、発表者以外の班員はメモを取ることにする(→図表 5)。4 人の発表が終われば、自ずと「IR 設立について」の肯定的視点と否定的視点を持てるようになっていく。

ここでは、「発表・表現出来る能力」と「他者の発表をメモする能力」が養えることを期待している。



図表 5 発表する生徒とそれを聞く生徒



(6)最後に「大阪に IR が設立されることに賛成か反対か」というテーマで 600 字の小論文を word で作成し、pdf 化した後教員へデータ送信。後日、こちらも生徒同士で相互評価しあう予定。

この授業は 3 回構成であり、初回の授業で「(1)」・「(2)」を行った。その際「(2)」は宿題としても課した。2 回目の授業で「(3)」・「(4)」を行い、最後の授業で「(5)」・「(6)」を行った。「(6)」に関しては授業中に途中まで取り組ませて、宿題とした。

第 3 節 今回の授業における工夫と反省

(1) 授業における工夫

- ・ 数多くの指示を生徒に対して与えていくが、必ず 1 歩先にすることを明確にしてから取り組ませた。それによって「今やっていること」が「次にすること」に積み重なるように意識させた。
- ・ ルーブリックには「デザイン性」という項目を設けているが、これは「デザイン性」が自らの制作物を他者に見せた時に「読もう！」という気持ちを起こさせ、かつ「わかりやすい！」と思ってもらえるために必要な能力であると生徒に実感してもらおうためである。大学においても社会においても、たとえ小さな資料でも作成上必要な要素であると考えているので実践している。
- ・ 発表させる際には、必ず自らが作成したまとめを他の生徒に見せるように指示(→図表 5 参照)

(AL 関連の実践)【高校/国語】「考えて書いて」「考えて話して」深める授業 (2018 年 11 月 18 日掲載 更新なし)

をした。

- ・ 同時期に本校公民科に「立法上 I R 法案がいかに成立したのか。また、どのような内容なのか」依頼し教科横断の形を取った。

(2) 授業における反省

- ・ 「発表」をする際はまとめの紙を使用している。しかし字が小さく、他者には分かり辛いという課題がある。理想は作成したまとめを「発表用の原稿」として、それを基に「発表用のパワーポイント」を作成することだが、時間の制約と私の技術的な問題から今回は見送った。
- ・ ルーブリック(→図表 2 参照)に「論理性」といった項目を掲げている。これは私自身が感じている「論理的である」という状態を、生徒の為に噛み砕いた内容としている。ただ、他の教員の目も通して、より普遍的な「論理的」とされる状態を目指すべきであると感じている。

第 4 節 最後に

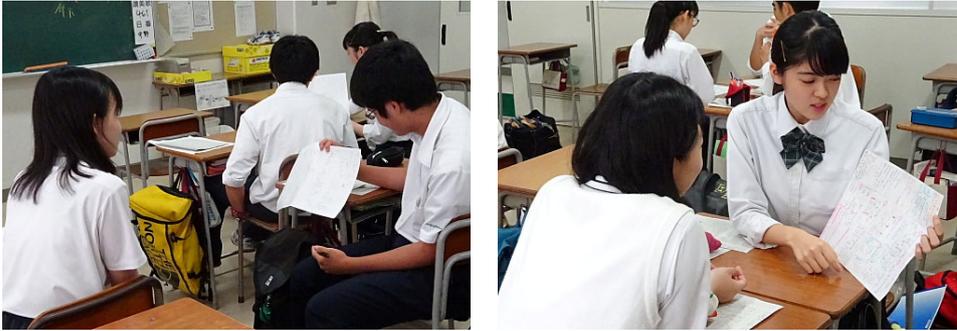
私が在籍している学年は 2019 年に入試を受験する。本校は大阪府南部の進学校であり、「偏差値」と「大学入試結果」はどうしても念頭に置かねばならない。現在の所、模試で測られる国語の偏差値に関しては例年と変わらない水準である。今後は現行の試験にもよりよく対応でき、なおかつ生徒が卒業した後、大学・社会で必要になる能力を養えるような二重の効果を発揮する取り組みを一層考えていく必要がある。が、反面自らが「おもしろい!」「たのしい!」と思える授業を積極的に実践していこうとも考えている。

溝上のコメント

- ・ 教師がよく勉強しており、ふだんからアクティブラーニング型授業を実践しているのがよくわかる技巧的な授業だった。
- ・ 個ー協同ー個の学習プロセスやワークシートベース、教師と生徒の関係性、身体化といったアクティブラーニング型授業の基本形(*参考)はほぼ問題なく踏まえられていた。生徒も一つ一つのステップ課題に真剣に、おもしろそうに取り組んでいた。すばらしかった。
(* 溝上慎一 (2018). アクティブラーニング型授業の基本形と生徒の身体性ー(学びと成長の講話シリーズ 1) 東信堂
- ・ 図表 1 のように、文章でまとめるだけでなく、イラストや図表も入れながら構造的にまとめている生徒が多く見られた。教師がまとめる際の「デザイン力」を指導しているからである。興味深かった。
- ・ 図表 3, 4 に見て取れるように、生徒同士の批評、それを受けての改善を促しており、生徒同士の学び合い(*参考)が実践されていた。
(* 生徒同士で学び合いについては、たとえば、下記の授業実践を参照のこと。
✓ (AL 関連の実践) 松永和也 (桐蔭学園中学校)「シンキングツールを用いた評論文の「創造的読解」

(AL 関連の実践)【高校/国語】「考えて書いて」「考えて話して」深める授業 (2018年11月18日掲載 更新なし)

- ✓ (AL 関連の実践) 中村憲幸 (東山中学・高等学校) 「楽しく思考力を育てる英語の授業 (2) -生徒の変化からみられる効果-」
- ✓ (AL 関連の実践) 芝池宗克 (近畿大学附属高等学校) 「級友との練磨-「問い学ぶ」教育による「生きる力」の育成-」
- ・ ペアで発表をおこなうとき、相手に見えるようにして発表していた。ほぼ全員この形が実現しており、ここにも指導が入っていたことが見て取れた。全国のアクティブラーニング型授業を見ていて、これはなかなか実現できていないので、感動した。



図表6 相手に見えるように発表

- ・ 教科横断で、公民科の教師と連携した授業を実現しており、この点も高度な授業になると感心した。

プロフィール



- ・ **中藤 辰哉 (なかふじ たつや) @清教学園中・高等学校 (国語科)**
- ・ 一言：試行錯誤の毎日です。生徒の為になり、また、私の為にもなる授業形態を模索しています。生徒が後々振り返って、あのとき授業を受けておいて良かったという事柄が多くなるように、思考する力・知識・表現力をつけてもらえればと思っております。